

銘柄分析レポート：ペットビジネス

1 はじめに

私の実家は、駅から歩いて 20 分程度の、閑静な住宅地にあります。地域柄、若い人があまり住んでおらず、見かけるのは中高年ばかりです。

するとどうなるかといえば、駅に向かう（あるいは駅から帰る）時間帯によっては、犬の散歩ラッシュに遭遇します。飼い主どうし、お互いに距離を保ちながら、愛犬を散歩させている様子は何となくユーモラスです。

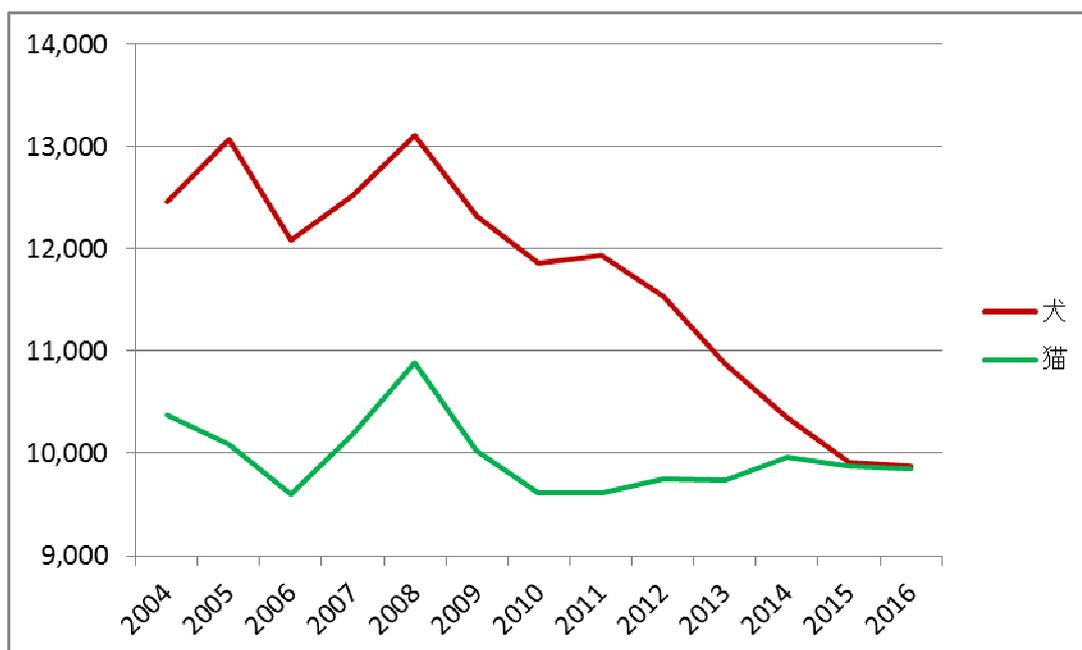
天気のいい日には、猫が道端に座っています。可愛がられているのか、人を怖がらず、平気で寝そべっている子も珍しくありません。

常日頃から、こういった状況を見せつけられているので、ペットビジネスが有望に思えてきました。ところが、調べてみると意外な事実が判明しました。飼育頭数ベースでは、犬は減り続けており、猫もほぼ横ばいなのです（下図）。

あれれ、全然増えていない。ペットビジネスも、もうダメなのか。

しかし、全体の数字のみで判断すると物事を見誤ります。投資家としては、その中の変化をとらえる必要があります。

★犬・猫の飼育頭数



日本ペットフード協会の公表データより作成